

広島研究所で第6回定時評議員会

第6回となる定時評議員会が2016年6月16日と17日の両日、放影研広島研究所において開催され、評議員8名中7名と理事、監事が出席したほか、日米両国政府や米国学士院のオブザーバーが参加した。議事進行はシェリー A. ハーン（Shelley A. Hearne）評議員会議長により行われた。

会議冒頭の日米政府代表のあいさつで、放影研の調査研究成果は世界の財産であり、放射線の健康影響調査における世界の卓越した研究拠点（COE）としての役割をこれからも果たして欲しい旨の発言に加えて、調査研究に献身的な協力をいただいている原爆被爆者と二世の方々に対する謝辞が表明された。

本評議員会において討議された議事の内容は以下の通りである。

2015年度の事業報告、決算報告、監査報告が行われ、それぞれ承認された。2016年度の事業計画に関して研究関連の事業、研修事業および啓発事業、並びにこれらを遂行するために必要な事業計画および収支予算について

報告があった。また、放影研の将来を見据えた戦略計画や新しく導入する内部監査制度についての説明があり、活発な討議が行われた。

2016年3月2日から4日にかけて広島研究所で開催された第43回科学諮問委員会（このたびの詳細な審査対象は臨床研究部）の勧告に関して、山下俊一 科学諮問委員会共同座長が報告した。全体的勧告の中で、①会議開催準備の省力化のため隔年審査の検討、②施設の老朽化や研究員の高齢化に対応した戦略的計画及びリサーチクラスターの立案、③研究提案に関する初期段階において統計部の関与を増やすことなどが報告され、それらの勧告に対する放影研の対応が協議された。

次いで、評議員2名、監事2名、科学諮問委員2名の選任が決議され、本評議員会の終結をもって任期満了となる2名の評議員への謝意が示された。

最後に、翌年の定時評議員会を2017年6月15日と16日に、長崎研究所で開催することが決定した。本年と同様、前日の14日に評議員による非公式会議が開催される。



評議員会の参加者